

平成19年3月期 中間決算説明会

株式会社ホンダクリオ東葛

JASDAQ 2754

2006年12月7日

東葛地域





北小金店



柏16号店



五香店



千葉ニュータウン西店



鎌ヶ谷店



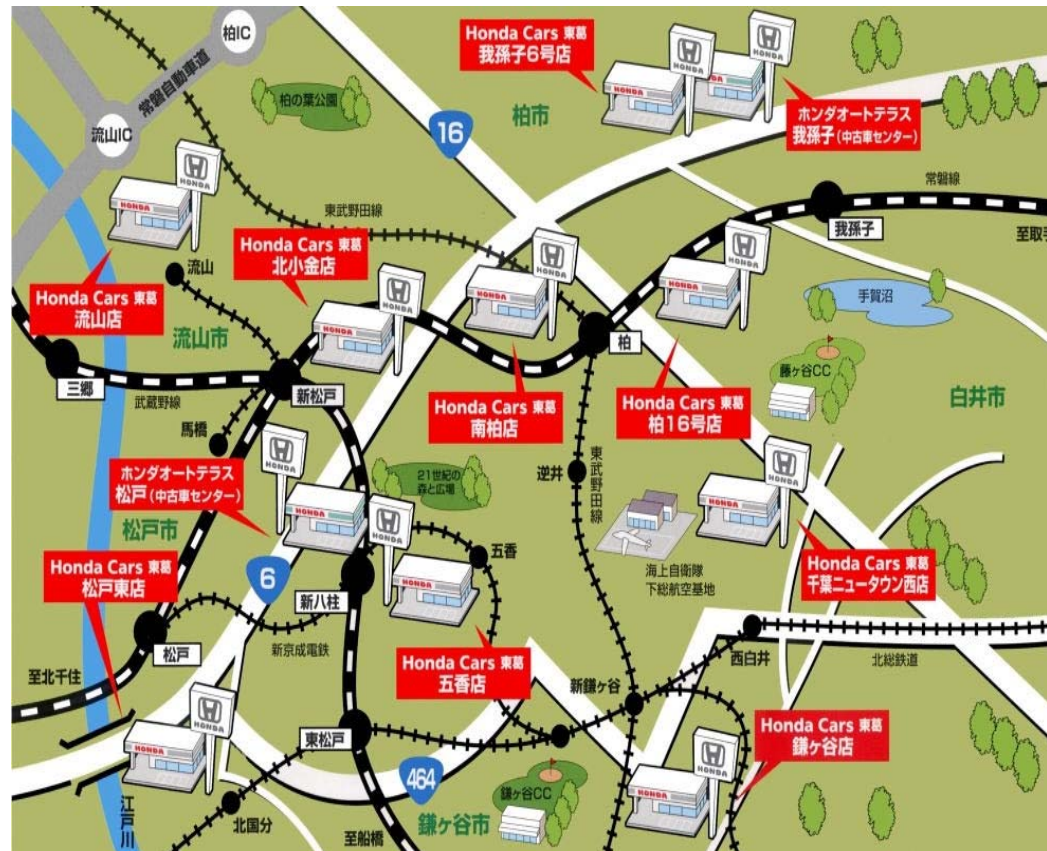
オートテラス松戸



我孫子6号店



オートテラス我孫子



南柏店



流山店



松戸東店

東葛エリアを11拠点でカバーするネットワーク

Contents

■企業紹介

■事業部門の構成

■平成19年3月期中間決算業績

■これからの事業戦略

■ 企業紹介

企業概要

- 社名 : 株式会社ホンダクリオ東葛
- 設立 : 昭和44年1月
- 資本金 : 210. 3百万円
- 従業員数 : 連結140人、単体81人
- 連結対象 : 株式会社ホンダベルノ東葛 (100%子会社、資本金50百万円)
- 事業内容 : 自動車販売関連事業を中心とした4つの柱
 - ① 新車販売
 - ② 中古車販売
 - ③ サービス(点検整備等)
 - ④ その他(自動車ローン、自動車保険等)

(2006年9月末現在)

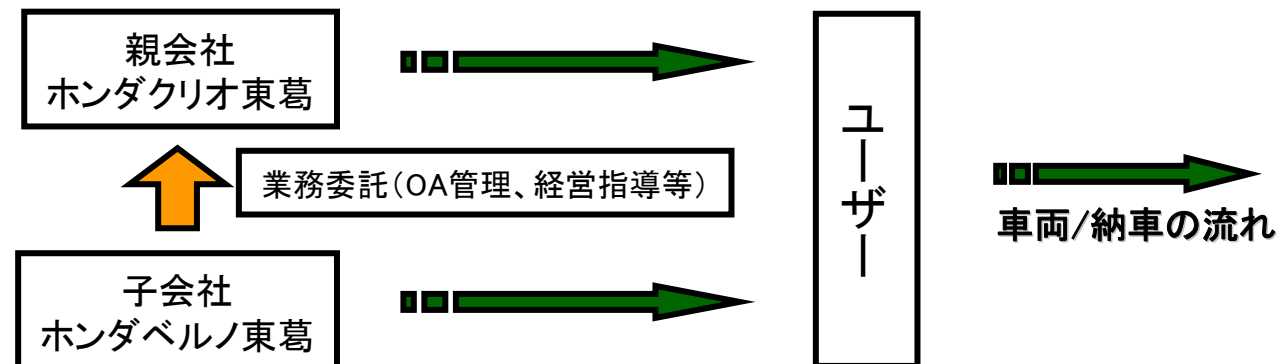
■事業部門の構成

新車販売部門

- 新車販売は、本田技研工業株式会社の新車を販売
- ホンダクリオ東葛: クリオ系列として、5店舗を運営
- ホンダベルノ東葛: ベルノ系列として、4店舗を運営
- 平成18年3月よりホンダ全車種を取扱い

< 取 扱 車 種 >
レジェンド、アコード、アコードワゴン、S2000、CR-V、インスパイア、エリシオン、エディックス、オデッセイ、ステップワゴン、ストリーム、フィット、フィットアリア、モビリオ、モビリオスパイク、エアウェイブ、パートナーシビック、シビックハイブリッド、ライフ、ザッツ、バモス、バモスホビオ、ゼスト、アクティ、アクティトラック

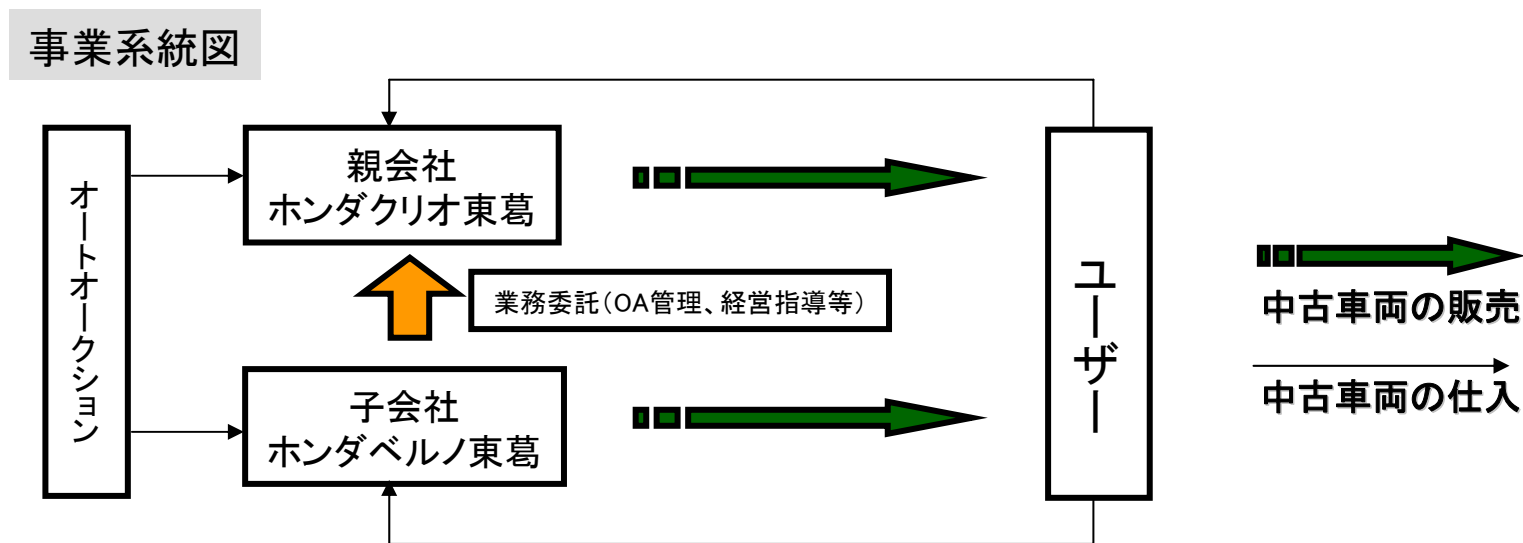
事業系統図





中古車販売部門

- ホンダクリオ東葛:1店を運営
- ホンダベルノ東葛:1店を運営
- 主として、本田技研工業の中古車を店舗において販売
- 一部、中古販売業者への販売を行う。
- 商品の仕入:新車販売時の下取り、オートオークション

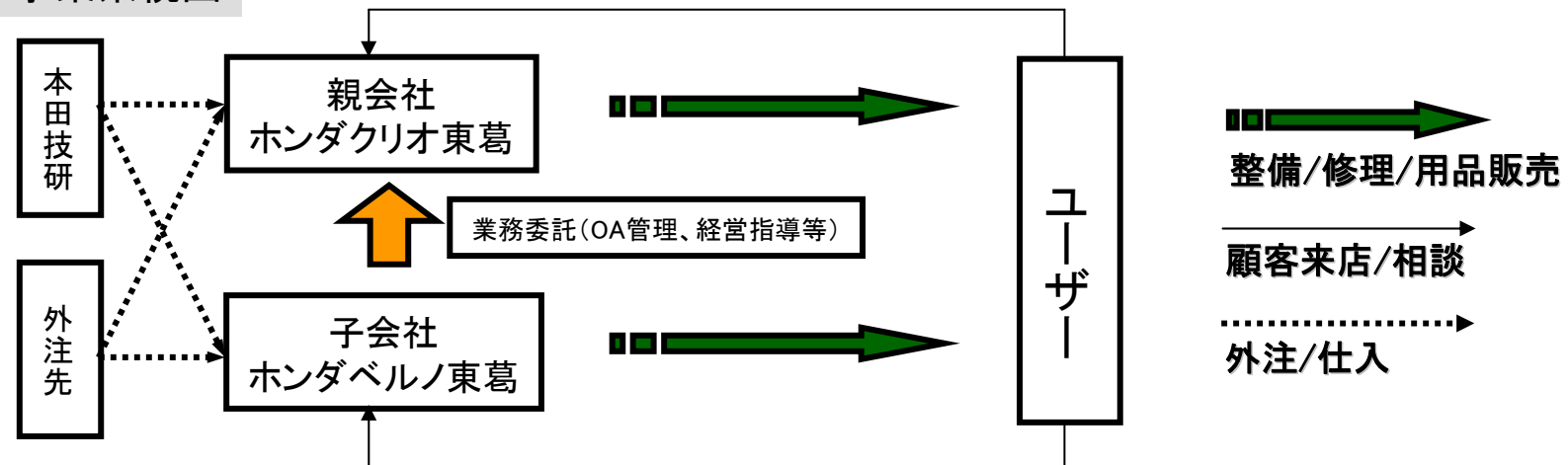


サービス部門

- 自動車の車検、12ヶ月点検整備、および钣金修理等の整備全般
- 自動車用品の販売
- 工場: クリオ系列6工場、ベルノ系列4工場
- 内訳: 陸運局指定工場(クリオ5、ベルノ2)、認証工場(クリオ1、ベルノ2)
- 特徴: 環境問題にも取り組んでおり、本田技研工業の「ベストグリーン」店に認定

*ベストグリーン: 本田技研工業の独自制度であり、環境保全に貢献していると認定する店舗のうち、最上級ランクに位置付けられているもの。

事業系統図



その他部門 <ローン事業>

当社グループの中に、「信販会社」があるイメージ

- 主力商品：自動車ローン「ホンダ東葛オリジナルローン」
(ローン手数料収入)

一般の自動車ローンが「立替払い方式」を多く採用しているのに対し、当社では「集金保証方式」を採用し、収益の安定確保につなげています。

事業系統図





その他部門 <ローン事業>

Tohkatsu C-LOAN ゆとりの新車購入

Honda Cars 東葛はお客様のライフスタイルに合った新車購入プランをご提案します。

3年後にご自身に合った3つのプランをお選びください。

A Plan

新しいお車にお乗り換え

お乗り換えの際、今までお乗りのお車を査定し、残価を返済。査定価格が据え置き金額を上回った分は頭金に充当できます。

※走行距離、車両状態によっては差額をご負担頂く場合がございます。また、差額は次車ローンに組み込むことができます。

B Plan

そのままお乗り続ける場合

残価を一括でお支払いいただくか、残価を再度ローンにてお支払いいただけます。



C Plan

お車を査定の上で返却

今までお乗りのお車を査定の上で買い取ります。



※走行距離、車両状態によっては差額をご負担頂く場合がございます。また、査定金額が据え置き金額を上回った場合は返金致します。

ディーラーだから
アフターサービスも
万全です!!

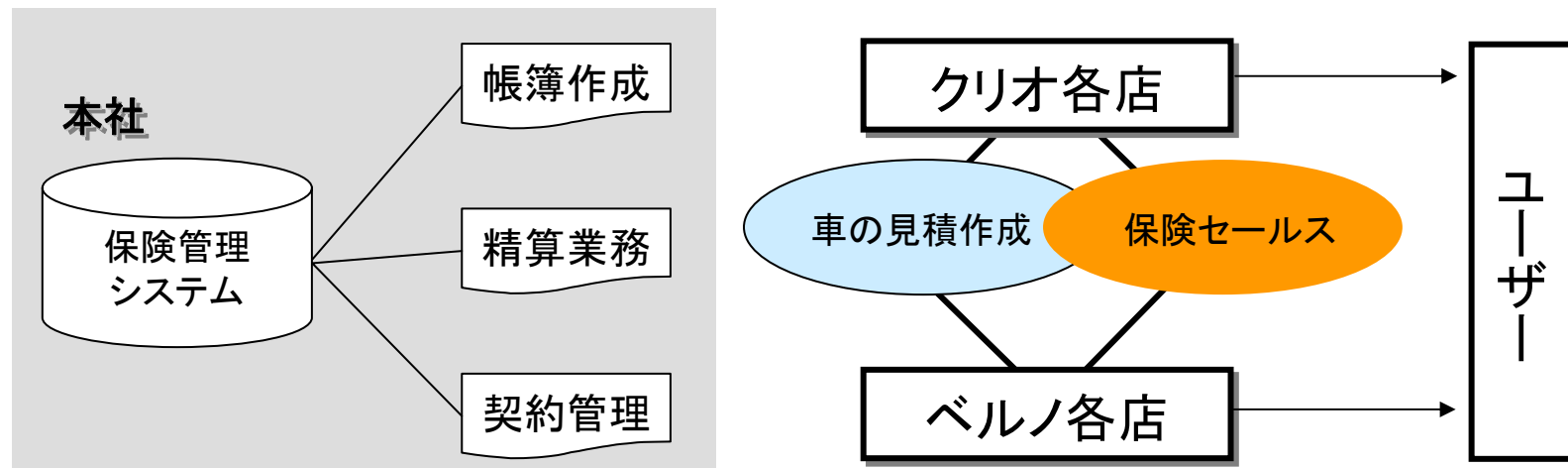
上記はCローンのシミュレーションの一例です。
当社Cローンは据え置き期間2年・4年・5年での
ご利用も可能です。また、据え置き金額の設定も
50%以上でも可能です。お客様のライフスタイルに
合ったローンプランが実現できます。
詳しくは当店営業スタッフまでお問い合わせください。



その他部門 <保険事業>

- 主力商品:自動車任意保険(保険手数料収入)
- 見積書の情報を生かして、自動車の任意保険をセールス
- あいおい損害保険株式会社の損害保険代理店の最上級種別である「J特級」を平成15年12月に取得

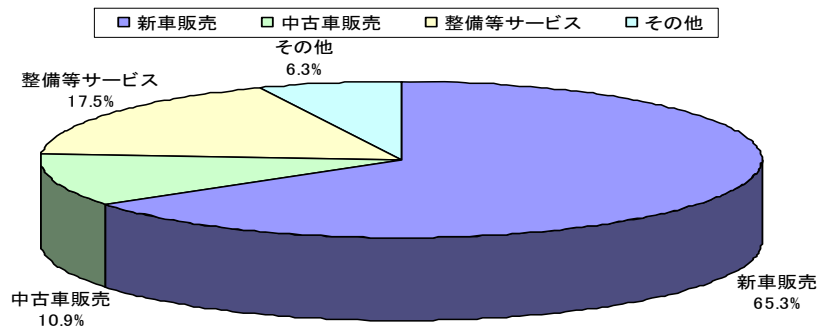
事業系統図



ビジネスモデル 《部門別構成比》

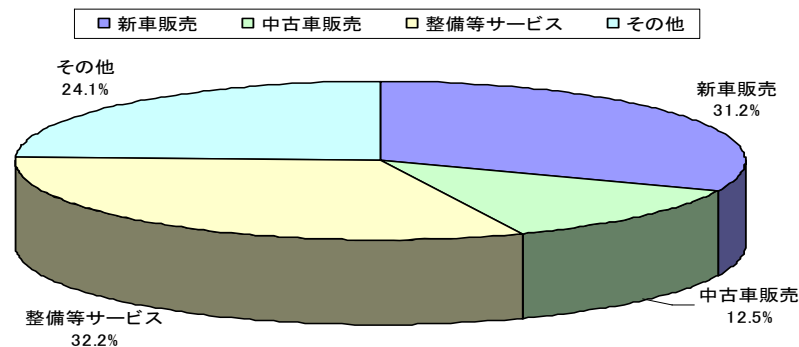
販売単価が高額である新車販売部門が売上高に付いては大きな割合を占めるが、粗利益構成比ではサービス部門と同等となり、ローンや保険を中心としたその他の部門と共に新車販売以外の収益が大変重要である。

《部門別売上高(連結)》



	売上高 (単位:百万円)		
	平成17/3期	平成18/3期	構成比
新車販売	4,966	4,719	65.3%
中古車販売	853	786	10.9%
整備等サービス	1,267	1264	17.5%
その他	460	453	6.3%
合計	7,547	7,223	100.0%

《部門別粗利益(連結)》



	粗利益 (単位:百万円)		
	平成17/3期	平成18/3期	構成比
新車販売	519	479	31.2%
中古車販売	193	192	12.5%
整備等サービス	492	495	32.2%
その他	382	370	24.1%
合計	1,587	1,537	100.0%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

■ 平成19年3月期中間決算業績

国内新車販売の現状

■ 平成18年4月～9月の国内新車販売台数

単位: 台

	平成17年4月 ～平成17年9月	平成18年4月 ～平成18年9月	対前年比
登録車＋軽自動車	2,797,828	2,702,444	96.6%
登録車	1,881,121	1,740,801	92.5%
軽自動車	916,707	961,643	104.9%
Honda	358,766	343,798	95.8%
Honda登録車	235,551	194,457	82.6%
当 社	1,220	1,131	92.7%

日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会より

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

平成19年3月期中間決算 ハイライト(連結)

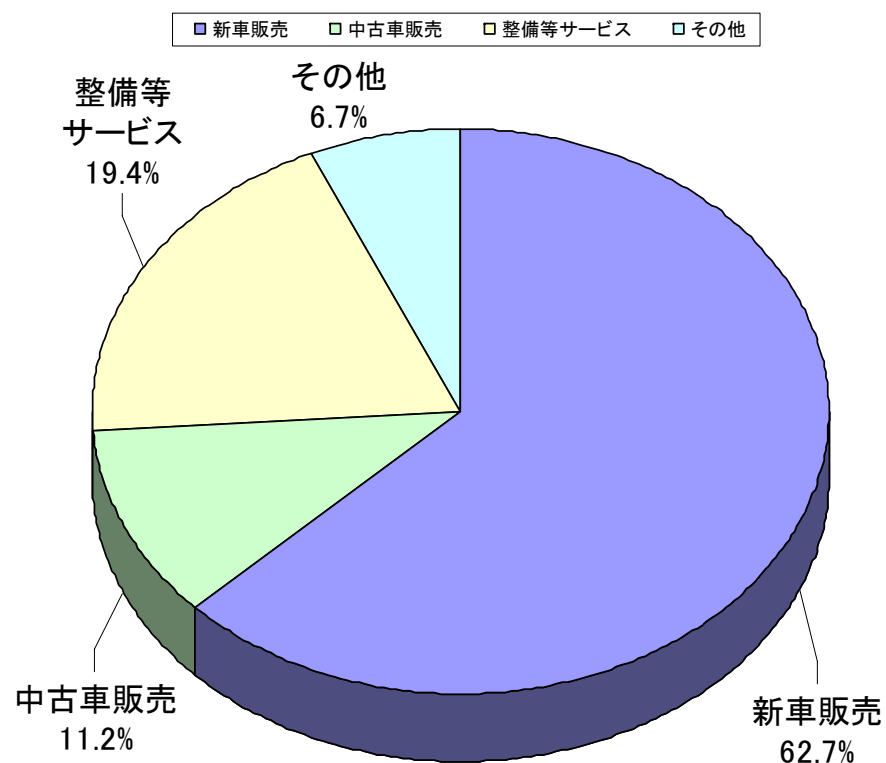
単位:百万円

	18年3月期 中間期実績	19年3月期 中間期予想	19年3月期 中間期実績	予想対比	前年 同期比
売上高	3,654	3,725	3,274	87.9%	89.6%
経常利益	225	195	149	76.4%	66.2%
当期純利益	127	116	90	77.6%	70.9%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

平成19年3月期中間決算 部門別業績

《部門別売上高(連結)》



	売上高 (単位: 百万円)			
	平成18/3月期中間期実績	平成19/3月期中間期実績	構成比	前年同期比
新車販売	2,430	2,054	62.7%	84.5%
中古車販売	363	366	11.2%	100.6%
整備等サービス	632	635	19.4%	100.5%
その他	227	218	6.7%	96.1%
合計	3,654	3,274	100.0%	

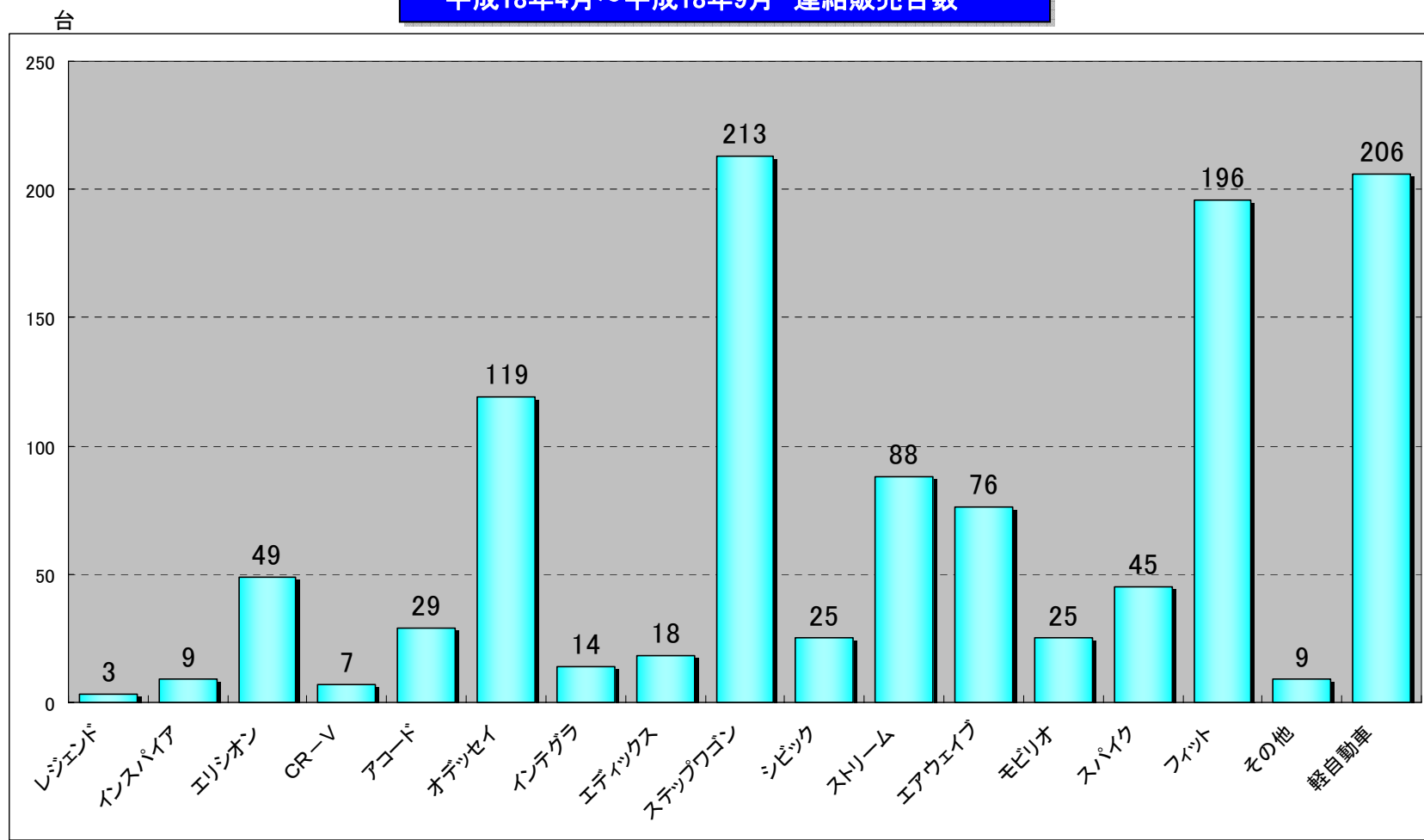
平成19年3月期中間



ホンダクリオ東葛

平成19年3月期中間決算 車種別新車登録台数

—平成18年4月～平成18年9月 連結販売台数—



ご注意：この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

業界平均との収益力比較(1)

主要財務データ比較

収益力(経常利益率)において、全国平均対比、大幅に上回っている。

単位:百万円

	当 社		他社(全国1,311社平均)	
	2006/3期	売上高対比	2006/3期	売上高対比
売上高	7,223	—	10,091	—
売上総利益	1,537	21.3%	1,538	15.2%
営業利益	427	5.9%	124	1.2%
経常利益	430	6.0%	123	1.2%
当期純利益	249	3.5%	93	0.9%

日本自動車販売協会連合会より

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

業界平均との収益力比較(2)

主要財務データ比較

収益力(経常利益率)において、業界平均対比、大幅に上回っている。

単位:百万円

	当 社		他社(全国H販売店1,012社平均)	
	2006/3期	売上高対比	2006/3期	売上高対比
売上高	7,223	—	1,694	—
売上総利益	1,537	21.3%	369	21.8%
営業利益	427	5.9%	9	0.5%
経常利益	430	6.0%	12	0.7%
当期純利益	249	3.5%	6	0.4%

当社調査による

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

財務ハイライト

I. 財務ハイライト

I. 平成18年3月期決算ハイライト(連結)

単位:百万円

	平成16/3期	平成17/3期	平成18/3期
売上高	6,930	7,547	7,223
営業利益	378	470	427
経常利益	395	459	430
当期純利益	221	228	249
総資産	6,675	6,931	6,878
純資産	1,805	1,966	2,166
1株当たり当期純利益(円)	41.88	47.25	46.76
1株当たり純資産(円)	369.79	407.04	443.82
1株当たり配当金(円)	10	10	10
総資本経常利益率	5.8%	6.8%	6.2%
株主資本比率	27.1%	28.4%	31.5%
売上高経常利益率	5.7%	6.1%	6.0%
株主資本当期純利益率	11.7%	12.1%	10.9%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

財務ハイライト

Ⅱ. 貸借対照表(主な項目)

	連結(単位:百万円)		前年同期比
	平成17/3月期	平成18/3月期	
流動資産合計	4,083	4,081	99.9%
現金及び預金	701	830	
受取手形及び売掛金	2,914	2,872	
固定資産合計	2,848	2,796	98.2%
有形固定資産	2,318	2,278	
長期貸付金	149	142	
差入保証金	193	188	
総資産	6,931	6,878	99.2%
流動負債合計	3,973	3,934	99.0%
短期借入金	2,859	2,836	
固定負債合計	991	776	78.3%
長期借入金	278	189	
資本の部合計	1,966	2,166	
負債・資本合計	6,931	6,878	99.2%

**受取手形分
2,689百万円**

※参考 当社は自動車ローンを自社で取り扱っておりますが、この代金の集金業務を株式会社オリエントコーポレーションに委託しています。その際お客様のお支払内容に合わせた金額の手形を振り出して頂き、割賦代金の総額を一括して受け取っています。

**この内、手形を担保
とした借入金
は
2,689百万円**

※参考 当社はこの手形を金融機関に担保として差し入れ、同額の融資を受けて運転資金として使用しています。この融資の返済は差し入れた手形の月々の落ち込み額を充当しています。仮にこれを表の上で相殺消去しますと株主資本比率が現在の31.5%から約51.7%と向上しますが、当社グループではこの「受取手形」と同額の「短期借入金」を両建てにすることで、リスクの金額を明確にしております。

平成19年3月期業績予想(連結)

単位: 百万円

	18年3月期 通期(実績)	19年3月期 通期(予想)	増減率
売上高	7,223	6,890	△4. 61%
経常利益	430	361	△16. 05%
当期純利益	249	216	△13. 25%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

■ これからの事業戦略

3チャンネル体制の構築



- 四輪車生産開始当初は当社も含め販売チャンネルは1チャンネル。
- どの販売店もすべての車種が販売可能。

ベルノ店の立ち上げを期に販売車種の異なる3チャンネル化を推進

クリオ・ベルノの2社体制

株式会社ホンダクリオ東葛

別会社：株式会社ホンダベルノ東葛



CLIO

レジェンドを中心とした上級志向のチャンネル



VERNO

プレリウドなどのスポーツ志向のチャンネル

当社においてはクリオ店、ベルノ店の2社を運営

PRIMO

軽自動車を中心としたファミリー志向のチャンネル

専売車種の不足

販売車種の異なる3チャンネルとして展開してきたが、しだいに専売車種の安定供給が困難。

⇒一部のみに形を変えた姉妹車が多く登場



アコード(クリオ店扱い)



アコードの姉妹車、アスコット(プリモ店扱い)



インスパイア(クリオ店扱い)



インスパイアの姉妹車 ビガー(ベルノ店扱い)

専売から併売の時代へ

＜ホンダの併売車＞

平成6年のオデッセイの発売以降、ある程度販売を見込める車種はほとんどが併売車に！！



オデッセイ



ステップワゴン



ストリーム



エアウェイブ



フィット

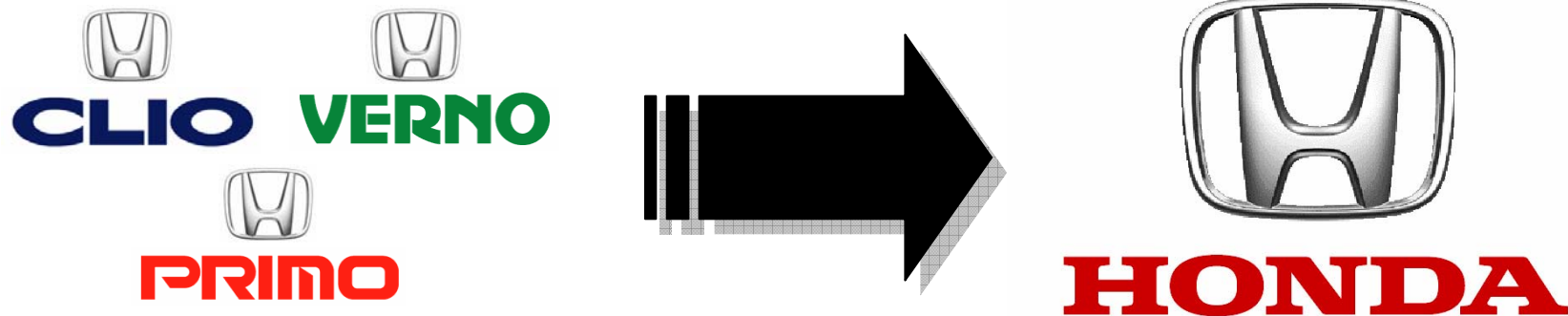
平成17年の当社の販売実績においても・・・

併売車の割合が90%前後まで拡大！！

ホンダカーズ東葛誕生

<ホンダの政策転換>

- チャンネル政策の廃止 ⇒ クリオ、ベルノ、プリモから Honda Cars に統一
⇒ 平成18年3月より全車種販売開始へ



上記を踏まえ、当社においてもクリオ系、ベルノ系の2社を運営していくメリットは消失

<10月1日付けでホンダベルノ東葛を吸収合併>

ホンダ車なら全てHonda Cars東葛へ→マーケットへ分かりやすさの提供

管理部門の統一により、コスト削減、経営資源の集中

マーケット需要に対する的確な販売政策・企画の立案・徹底

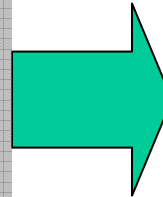
宣伝広告の2重構造の解消により、効果的かつ効率的なプロパガンダ政策の実現

持株会社制度の導入へ

【現 状】

(株)ホンダクリオ東葛
(屋号:ホンダカーズ東葛)

新車:全てのホンダ車
中古車:全てのホンダ車



【2007年4月2日予定】

(株)東葛ホールディングス(社名変更)
(純粋持株会社)

(株)ホンダカーズ東葛

新車:全てのホンダ車
現在の新車9拠点を
承継し、新車販売専門
会社として運営

(株)ティーエスシー

中古車:全ての車
現在の中古車2拠点を
承継し、ホンダの中
古車を販売。さらに
新たな店舗展開で、
全てのメーカーの
中古車を販売、運営

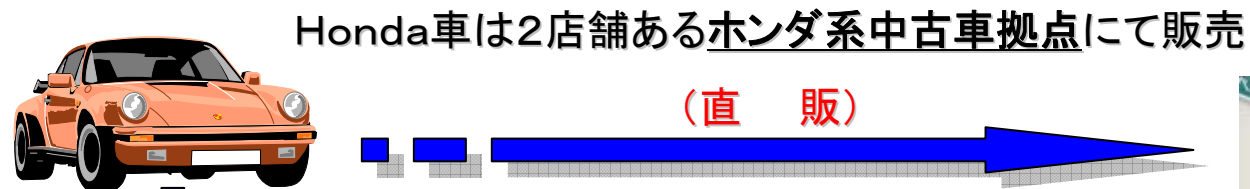
導入の目的・狙い

現状の体制においても安定した収益性、株主配当は維持できると確信しているが、本田技研工業(株)より「ホンダ」の名称を使用していることもあり、その成長戦略は範囲の狭いものでありました。この持株会社制度の導入により事業運営上の自由度が高まり、新規事業等への進出も視野に入れ、マーケットの環境変化に対応できる経営管理体制を構築することで自動車販売のみに頼ることなく安定かつ継続的に収益をあげられる強固な企業体質の構築が可能になると判断いたしました

中古車事業の強化(1)

＜新車販売時の下取車の流れ＞

・現状、新車販売時の下取車は半数がHonda車で、半数がHonda車以外である。



⇒ 業販は薄利にて流出しているのが現状
利益創出源泉の喪失



他メーカー車はオートオークション等へ

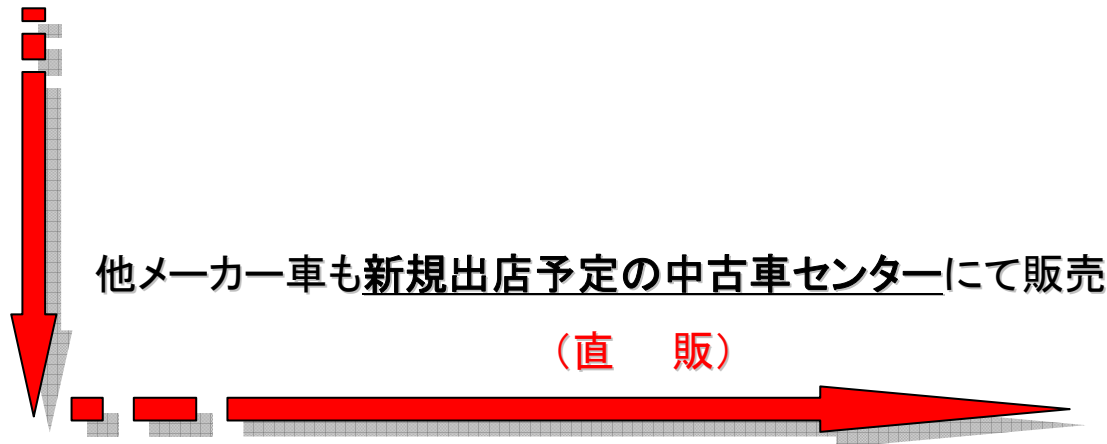
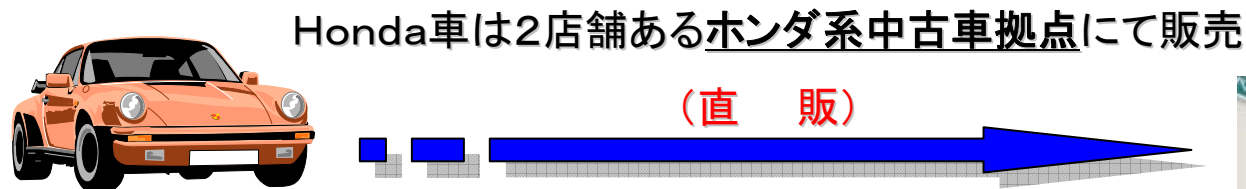
(業 販)



ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

中古車事業の強化(2)

<新車販売時の下取車の流れ>



- ・日々変化するマーケットに柔軟に対応が可能。(ミニバン専門店等)
- ・メーカー系の中古車店と違い出店地域などの規制を受けない。



IR連絡先

お問い合わせ先

- 本件に関するお問合せ先
- 株式会社ホンダクリオ東葛 IR担当
- 本社：千葉県松戸市小金きよしヶ丘3-21-1
- 電話番号：047-346-1190
- ファックス：047-345-1159
- ホームページ：<http://www.hctk.co.jp>